

栃木県 下野市

かぶとづか

はたおりがた

## 甲塚古墳出土機織形埴輪

甲塚古墳は、墳丘1段目に幅の広い平坦面を持つ全長約80mの帆立貝形前方後円墳で、6世紀後半に築造されたと考えられます。墳丘1段目の幅約14mある平坦面の中心部付近に円筒埴輪が一行に廻ることが確認されました。この埴輪列の墳丘西側括れ部付近からは、形象埴輪が復元できるもので24基出土していますが、この形象埴輪列中心から機織形埴輪が人物を伴い、2基出土しました。今回出土した埴輪は、人物埴輪7が機台を持つ地機で新しい形式のもの。人物埴輪8が機台を持たない原始機です。



人物埴輪7・8 出土状況



人物埴輪7 復元状況 (地機)



人物埴輪8 復元状況 (原始機)

### 原始機 (げんしばた)

原始機は、弥生時代から古墳時代後期頃までがおもに使用されていた期間ですが、実際に日常的にはいつまで使用されていたかは不明な点も多く、民俗例からの類推にとどまります。

原始機は経保持法により直立式と輪状式の2つに大別できますが、この埴輪は形状的に輪状式の原始機と考えられます。ただし、経部分は経送具下部で埴輪基台天井部に接合して、省略した表現がされており輪状を呈してはいません。

今回ほぼ完全な形で原始機をかたどった埴輪が出土したため、実際に織る状態を再現する点で、今まで類例が無い稀有な例になります。この機を織っている人物は体部が出土しておりませんが、腕が出土しており腕輪(釧)を着けていることから女性と考えられます。

### 機織形埴輪出土の意義

全国各地の発掘調査により、6世紀前半頃の遺跡から機織機の部材は出土していましたが、いずれも木製品のため遺存状況が悪く断片的なもので全体像が判りませんでした。

今回、新旧2種類の埴輪が出土したことにより、6世紀後半におけるこのような機織機の存在のみならず、組み立てられた様子が甲塚古墳の埴輪によって初めて明らかになりました。

甲塚古墳から出土した形象埴輪群が何を意味しているのかは、すぐには結論ができませんが、新旧2種類の機織形埴輪が形象埴輪列の中心付近に配置されることから、機織りが甲塚古墳の被葬者に重要なものであり、この被葬者が機織りに関わっていた人物であった可能性が考えられます。

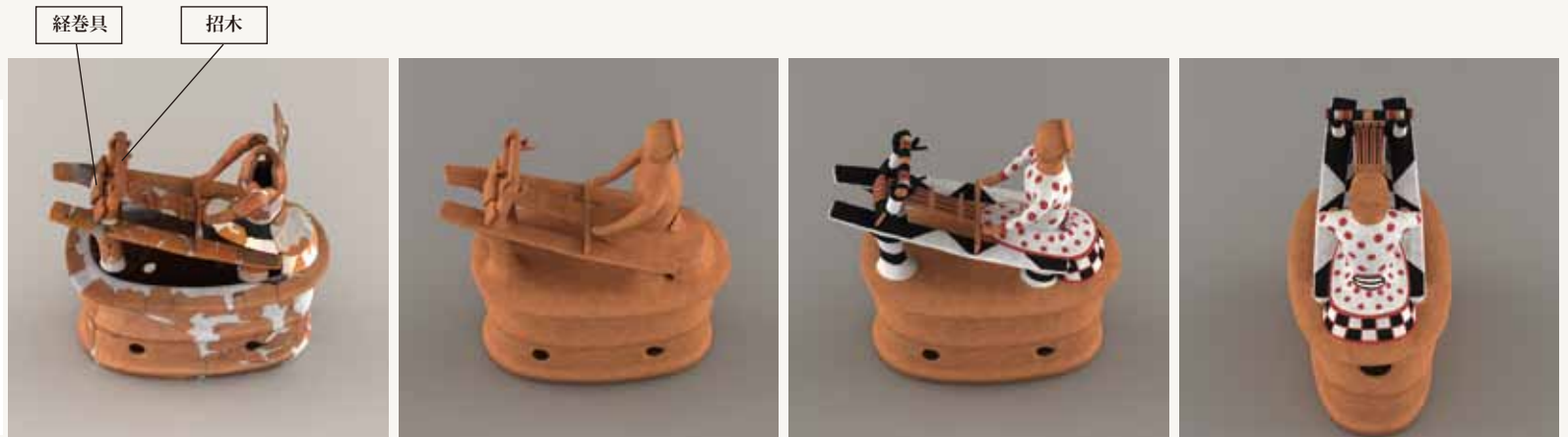
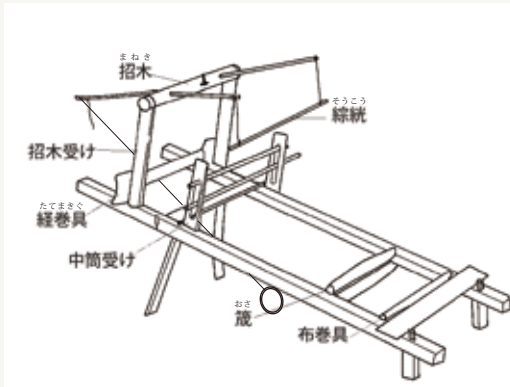
### 地機 (じばた)

地機は、近年の発掘調査により6世紀前半頃(滋賀県<sup>とのにし</sup> 栗東<sup>たてまきぐ</sup> 西遺跡)から経巻具などの木製品の部材が出土していることから日本でもこの頃には使用されていたことは判名していましたが、全体像は不明でした。しかし、甲塚古墳出土の人物を伴う機織形埴輪が出土したことにより、組み上がった状態での形状を示す例が皆無であった地機について、稼働状態に組んだ形の機織機の構造が明らかになった、日本初の事例です。

人物埴輪7とした機織形埴輪は、宗像大社に「金銅製高機<sup>こんどうせいいたかはた</sup>」として所蔵されている雛形と細部については検討の余地がありますが、近似した構造になると考えられます。

※機を織るという行為は、「古事記」に太陽の女神である天照大御神<sup>あまてらすおみかみ</sup>が、神に捧げる衣を服織女<sup>はたおりめ</sup>に織らせていた。という内容の記述があり、神聖なこととされていました。現在でも伊勢神宮では、神御衣祭<sup>かみみそさい</sup>として神に和妙<sup>にぎたえ</sup>とよばれる絹織物と荒妙<sup>あらたえ</sup>とよばれる麻織物をお供えするための神事がおこなわれています。

機織機の復元(地機)

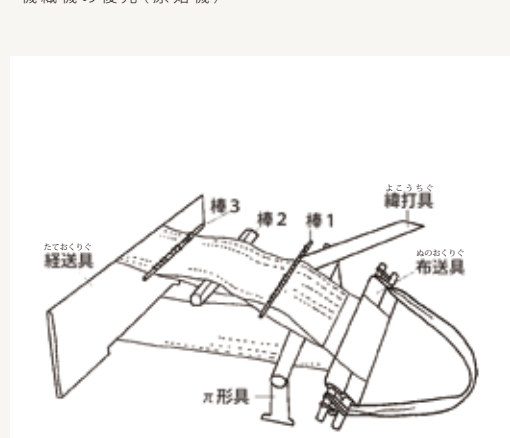


写真解析から3次元グラフィック(株)リッケイ作成

※機織機の復元図は、宗像大社に「金銅製高機」として所蔵されている雛形を参考に作成しました。甲塚古墳から出土している埴輪は、中筒受けに該当する場所に部材が剥離した痕跡はありますが、欠損してわかりません。

※この埴輪は、基台天井部が欠損しており基台上部に埴輪を復元できないため、3次元のコンピュータグラフィックにより欠損している基台天井部と人物埴輪に施されている彩色を復元しました。

機織機の復元(原始機)



※輪状式原始機の復元は、東村純子氏の著書「考古学からみた古代日本の紡織」中の復元例を参考におこないました。図中の棒1～3は実際には何の部材に該当するか不明なためこのような表示としました。また、形状からπ形具としたものは、群馬県の上細井稲荷山

古墳から出土している石製祭具によく似たものがあります。この機織機には彩色が施されており、基台の天井部には黒彩がπ形具の脚には灰彩、経糸表現には白・灰・赤彩が施されています。また、人物の上衣と裳にも白彩が施されています。